令和6年度

高等学校(情報)教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅰ)

注意事項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 氏名、受験番号を「令和6年度 高等学校(情報)教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号をマークしてください。
4. 「解答カード」の中で、特に受験番号の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て「解答カード」の解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず黒鉛筆(HB)を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、プラスチック製消しゴムで完全に消してください。また、「解答カード」を曲げたり折ったりしてはいけません。
「解答カード」が汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に「解答カード」の交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから70分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 次の各文は、教育史上の人物の教育思想に関する記述である。コメニウス(Comenius, J.A.)の教育思想として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 人間性善説に立って、社会規範の注入を排除し(消極教育)、「自然の教育」「事物の教育」「人間の教育」の3種の教育を行うべきと主張した。

イ 人間の精神にはあらかじめ刻み込まれた生得観念はなく、感覚を通じて後から書き込まれるという「精神白紙説(タブラ・ラサ)」を唱えた。

ウ 平和実現のためには、万人に対して普遍的な知識を伝達することが必要であるとする「汎知主義(パンソフィア)」を唱えた。

エ 対話を重視し、相手の論理的な矛盾を暴露することで、無知を自覚させた。この自覚は「無知の知」と呼ばれている。

問 2 次の各文章は、明治期の教育史上の人物に関する記述である。人物名との組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

① 幕末にアメリカに密航して神学を学び、1874(明治7)年に帰国した。翌年、京都に私立学校を創設し、キリスト教を土台とした「自治自立」の人材養成を教育理念に掲げた教育を展開した。

② 1862(文久2)年幕府の海外使節に随員して、フランス、イギリス、オランダなどの欧州各国を回った。その成果を著書『西洋事情』、『世界国尽』などに示した。東京に私立学校を開設し、「自主独立」を教育理念とする実践を展開した。

③ 1872(明治5)年フランスに留学した。大日本帝国憲法の原案作成に参加するとともに、枢密院書記官長として内閣制度、地方自治制度の導入に大きな役割を果たした。1890(明治23)年には元田永孚とともに、「教育勅語」を完成させた。

④ 1865(慶応元)年薩摩藩費留学生として渡英した。1873(明治6)年に帰国し、明六社の設立に参加した。初代文部大臣として、1886(明治19)年に小学校令、中学校令、帝国大学令、師範学校令を発し、学校教育全般にわたる制度改革を行った。

	①	②	③	④
ア	森有礼	新島襄	井上毅	福沢諭吉
イ	新島襄	福沢諭吉	井上毅	森有礼
ウ	新島襄	井上毅	森有礼	福沢諭吉
エ	井上毅	福沢諭吉	新島襄	森有礼

問 3 「教育基本法」(平成 18 年法律第 120 号)の条文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。
- イ すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。
- ウ 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。
- エ 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

問 4 次の各文は、「学校教育法」(昭和 22 年法律第 26 号)の条文である。文章中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第 51 条 高等学校における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、 ① として必要な資質を養うこと。

二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、 ② に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、 ③ な知識、技術及び技能を習得させること。

三 ④ に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。

	①	②	③	④
ア	国家及び社会の形成者	個性	専門的	個性の確立
イ	国家及び社会の形成者	能力	基礎的	人格の完成
ウ	日本国民	能力	専門的	個性の確立
エ	日本国民	個性	基礎的	人格の完成

問 5 次の各文は、「地方公務員法」(昭和 25 年法律第 261 号)及び「教育公務員特例法」(昭和 24 年法律第 1 号)の条文である。文中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

<p>【地方公務員法】</p> <p>第 30 条 すべて職員は、 ① として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行に当っては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。</p> <p>【教育公務員特例法】</p> <p>第 22 条第 2 項 教員は、 ② に支障のない限り、 ③ の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。</p>
--

	①	②	③
ア	全体の奉仕者	本務	任命権者
イ	公務員	本務	本属長
ウ	全体の奉仕者	授業	本属長
エ	公務員	授業	任命権者

問 6 次の文は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年文部科学省告示第 68 号)の「第 1 章 総則 第 3 款 教育課程の実施と学習評価 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の一部である。文中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

各教科・科目等において身に付けた知識及び技能を活用したり，思考力，判断力，表現力等や ① ，人間性等を發揮させたりして，学習の対象となる物事を捉え思考することにより，各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(以下「見方・考え方」という。)が鍛えられていくことに留意し，生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら， ② より深く理解したり，情報を精査して ③ したり， ④ 解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

	①	②	③	④
ア 協調性		知識をより多く身に付けて	考えを形成	問題とされたことの
イ 学びに向かう力		知識を相互に関連付けて	考えを形成	問題を見いだして
ウ 協調性		知識を相互に関連付けて	事実を確認	問題を見いだして
エ 学びに向かう力		知識をより多く身に付けて	事実を確認	問題とされたことの

問 7 次の文章は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年文部科学省告示第 68 号)の「第 1 章 総則 第 5 款 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実」の一部である。文章中の空欄 ① ~ ④ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

生徒が、学ぶことと ① とのつながりを見通しながら、社会的・② 的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科・科目等の特質に応じて、③ の充実を図ること。その中で、生徒が自己の④ を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

	①	②	③	④
ア	社会の発展	経済	キャリア教育	生き方働き方
イ	社会の発展	職業	教育相談	在り方生き方
ウ	自己の将来	職業	キャリア教育	在り方生き方
エ	自己の将来	経済	教育相談	生き方働き方

問 8 次の文章は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年文部科学省告示第 68 号)の「第 4 章 総合的な探究の時間 第 2 各学校において定める目標及び内容 3 各学校において定める目標及び内容の取扱い」の一部である。文章中の空欄 ① ~ ④ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、①の実態、生徒の特性等に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの②な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、①の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の進路に関する課題などを踏まえて設定すること。

(6) 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること。

ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で③ものとして形成されるようにすること。

イ 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究の過程において発揮され、④において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

	①	②	③	④
ア	地域や学校	グローバル	評価される	未知の状況
イ	社会構造	現代的	評価される	自身のキャリア
ウ	地域や学校	現代的	生きて働く	未知の状況
エ	社会構造	グローバル	生きて働く	自身のキャリア

問 9 次の文は、「高等学校学習指導要領」(平成 30 年文部科学省告示第 68 号)の「第 1 章 総則 第 1 款 高等学校教育の基本と教育課程の役割」の一部である。文中の空欄 ① ~ ④ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の ① に基づき、生徒が自己探求と ② に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、 ③ を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる ④ を養うことを目標とすること。

①	②	③	④
ア 根本精神	自己実現	人間としての在り方生き方	道徳性
イ 基本理念	個性の伸長	将来の生き方や進路	道徳性
ウ 根本精神	個性の伸長	人間としての在り方生き方	実践意欲と態度
エ 基本理念	自己実現	将来の生き方や進路	実践意欲と態度

問10 次の文章は、「高等学校学習指導要領」(平成30年文部科学省告示第68号)の「第5章 特別活動 第2 各活動・学校行事の目標及び内容〔ホームルーム活動〕 2 内容」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(1) ホームルームや学校における ① への参画

ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
ホームルームや学校における生活を向上・充実させるための課題を見だし、解決するために話し合い、 ② を図り、実践すること。

イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚
ホームルーム生活の充実や向上のため、生徒が ③ 組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。

ウ 学校における多様な ④ の生活の向上
生徒会などホームルームの枠を超えた多様な ④ における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、ホームルームとしての提案や取組を話し合って決めること。

	①	②	③	④
ア	集団づくり	合意形成	階層型	集団
イ	集団づくり	意思決定	主体的に	個人
ウ	生活づくり	意思決定	階層型	個人
エ	生活づくり	合意形成	主体的に	集団

問11 次の文章は、『生徒指導提要』(令和4年12月文部科学省)からの抜粋である。文章中の空欄
① , ② に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

生徒指導の目的

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる ① を支えることを目的とする。

生徒指導において発達を支えるとは、児童生徒の心理面(自信・自己肯定感等)の発達のみならず、学習面(興味・関心・学習意欲等)、社会面(人間関係・集団適応等)、進路面(進路意識・将来展望等)、健康面(生活習慣・メンタルヘルス等)の発達を含む包括的なものです。

また、生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が ② を身に付けることが重要です。児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「 ② 」を獲得することが目指されます。

	①	②
ア	他者理解	規範意識
イ	他者理解	自己指導能力
ウ	自己実現	規範意識
エ	自己実現	自己指導能力

問12 学習障害(LD)に関する説明として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 全体的に見れば標準的な知的能力をもつが、聞く、話す、読む、書く、計算するなどの学習の基礎的能力のうち一部の能力に偏って著しく苦手な領域をもつ。
- イ 中枢神経系の機能障害があることが原因と推定されるが、視覚障害・聴覚障害・知的障害・情緒障害などの障害や環境的な要因が直接の原因によるものではない。
- ウ 通常の学級での指導は困難であるため、通級による指導を必須とする。
- エ 学習障害(LD)により自己評価の低下が見られる場合には、自己理解や自己有能感を高めることが大切である。

問13 ハヴィガースト(Havighurst, R.J.)の発達課題における青年期の課題として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 行動を導く価値観や倫理体系の形成
- イ 日常生活に必要な概念の発達
- ウ 市民的責任を負うこと
- エ 善悪の区別・良心の学習

問14 学習の方法とその提唱者の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 有意味受容学習 —— オーズベル(Ausubel, D.P.)
- イ 観察学習 —— スキナー(Skinner, B.F.)
- ウ 発見学習 —— バンデューラ(Bandura, A.)
- エ プログラム学習 —— ブルーナー(Bruner, J.S.)

問15 次の各文は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」(令和3年1月26日中央教育審議会)の一部である。文中の下線部の内容に誤りのあるものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 高等学校は、義務教育機関ではないものの、既に進学率が約99%に達し、今日では中学校を卒業したほぼ全ての生徒が進学する教育機関となっている。
- イ 高等学校には多様な入学動機や進路希望、学習経験、言語環境など、様々な背景を持つ生徒が在籍していることから、義務教育において育成された資質・能力を更に発展させながら、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することが必要である。
- ウ 高校生の現状の一つとして、学校生活への満足度や学習意欲が中学校段階に比べて上昇しており、高等学校における教育活動を、高校生を中心に据えることを改めて確認し、その学習意欲をさらに喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長することが求められる。
- エ 高等学校は初等中等教育段階最後の教育機関として、高等教育機関や実社会との接続機能を果たすことが求められており、また、選挙権年齢や成年年齢が18歳に引き下げられることなどを踏まえ、生徒が高等学校在学中に主権者の一人としての自覚を深めていくための学びが求められている。

問16 次の文章は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』の「第1部 各教科に共通する教科「情報」 第2章 共通教科情報科の各科目 第1節 情報I 2 内容とその取扱い (2) コミュニケーションと情報デザイン」に示された内容に基づく記述である。文章中の空欄 ① ～ ⑤ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ここでは、メディアと ① 手段及び情報デザインに着目し、 ② に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、メディアの特性や ① 手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解するようにし、効果的な ① を行うための情報デザインの考え方や方法を身に付けるとともに、コンテンツを表現し、評価し改善する力を養うことができるよう指導する。なお、ここで扱う情報デザインとは、効果的な ① や問題解決のために、情報を ③ したり、 ④ を持った情報を受け手に対して分かりやすく伝達したり、操作性を高めたりするためのデザインの基礎知識や表現方法及びその ⑤ のことである。

	①	②	③	④	⑤
ア	コミュニケーション	目的や状況	整理	目的や意図	技術
イ	記号化	目的や状況	加工	目標や価値	技能
ウ	コミュニケーション	用途や年齢	整理	目標や価値	技能
エ	記号化	用途や年齢	加工	目的や意図	技術

問17 次の文章は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』の「第1部 各学科に共通する教科「情報」 第2章 共通教科情報科の各科目 第1節 情報I 2 内容とその取扱い (4) 情報通信ネットワークとデータの活用」に示された内容に基づく記述である。文章中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

コンピュータ等を使ってデータをやり取りするためにコンピュータ同士を接続する仕組みや情報通信ネットワークを構成する ① , ハブ, ルータなどの ② の役割について理解するようにし, 安全かつ効率的な通信を行うために必要な ② や ③ を適切に選択する力を養う。さらに, 情報セキュリティを確保する方法について調べ, その意義を考えることにより, 情報通信ネットワークを適切に活用しようとする ④ を養うことが考えられる。

①	②	③	④
ア ケーブルやコネクタ	通信機器	通信相手	態度
イ ケーブルやコネクタ	構成要素	通信相手	思考力
ウ クライアントやサーバ	通信機器	プロトコル	思考力
エ クライアントやサーバ	構成要素	プロトコル	態度

問18 次の文は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』の「第1部 各教科に共通する教科「情報」 第2章 共通教科情報科の各科目 第2節 情報Ⅱ 2 内容とその取扱い (4) 情報システムとプログラミング」の一部である。下の①～③の記述について、内容の取扱いの例として最も適切なものの組合せを、ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察することでは、情報システムが提供するサービスを活用するために、そのサービスが生活に与える効果や影響、サービスが停止した時の影響、個人情報が漏洩した時の影響について考える力、サービスの停止や個人情報の漏洩に対応する力などを養うとともに、人間が安全かつ快適に利用できることを目指した情報システムの在り方や社会に果たす役割と影響について考える力を養う。

- ① 交通系 IC カードを利用したシステムを取り上げ、RFID(Radio Frequency IDentification)などの技術や処理の仕組み、情報システム全体の情報の流れ、情報システムに蓄積された情報の利用方法などを扱う。
- ② 携帯情報端末の位置情報システムを取り上げ、GPS(Global Positioning System)衛星や携帯情報端末の基地局、無線 LAN を使用した機器からの情報を用いることで使用者の位置を正確に特定するための仕組み、ユーザーが公衆無線 LAN を使用すると通信内容が盗聴されることなど、情報システムにおける個人情報の利用の在り方などを扱う。
- ③ 情報システムは独立したシステムとして機能しているだけでなく、GPS と GIS などのように複数の情報システムを組み合わせることにより、より高度で便利な情報システムとして活用されていることにも触れる。

- ア ①②
- イ ①③
- ウ ②③
- エ ①②③

問19 次の文章中の空欄 ① , ② に当てはまる値の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

次の Python を模したプログラムは、ある探索アルゴリズムを記述したものである。ここで、 $x > 0$ 、 $y > 0$ としたとき、“ $x // y$ ”は、“ x / y の値の小数点以下を切り捨てた値”(x を y で割ったときの商)を表す。このとき、行10の実行回数は、① 回である。また、行1のリスト(配列) a を「0から9999まで」の長さ10,000のリスト(配列)にすると同時に、行3の「 $right = 9$ 」を「 $right = 9999$ 」にした場合、行10の実行回数は、② 回程度増加する。なお、このプログラムでは、ブロック部分は、左側のインデントが同じ長さになっている部分として記述する。

【プログラム】

(行番号)

```
1 a = [0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9]
2 left = 0
3 right = 9
4 mid = (left + right) // 2
5 target = 6
6 found = 0
7 count = 0
8 found = 0 の間：
9     count = count + 1
10    もし a[mid] == target ならば：
11        found = 1
12    そうでなくもし a[mid] < target ならば：
13        left = mid + 1
14    そうでなければ：
15        right = mid - 1
16    mid = (left + right) // 2
```

	①	②
ア	3	10
イ	3	100
ウ	4	10
エ	4	100

問20 次の①～⑤のデータとその水準尺度の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 身長
- ② 成績の5段階評価
- ③ 気温(摂氏)
- ④ 血液型
- ⑤ 震度

	①	②	③	④	⑤
ア	間隔尺度	順序尺度	間隔尺度	間隔尺度	間隔尺度
イ	比例尺度	順序尺度	間隔尺度	名義尺度	順序尺度
ウ	間隔尺度	間隔尺度	比例尺度	名義尺度	順序尺度
エ	比例尺度	間隔尺度	比例尺度	間隔尺度	間隔尺度